

ド イ ツ 語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

3年ぶりに追試験が実施された。前回（平成23年度試験）同様、今年度も本試験との比較を中心に論じたいと思う。

追試験の問題構成、出題数は本試験と全く同じであり、ドイツ語の量もほぼ同じといってよい。

また、本試験に比べてやや高く難易度を設定している点も、本試験の問題と解答を既に知っている受験者を想定する場合、適切であると考えている。本年度に関していえば、本試験への評価でも述べたように、本試験の問題が例年と比べても素直で解きやすいものであった（特に第5問、第6問）ために、かえって本試験よりも試験問題としては優れているのではないかと思われる部分もあるように感じられた。前回の追試験についてのコメントで述べたことの繰り返しとなるが、出題者の苦勞が偲ばれる優れた問題がわずかな数の受験者のための試験になってしまったことは残念である。

2 内 容・範 囲

本試験同様、受験者に戸惑いを与えるような内容は見られなかった。問題形式のバランスも適切である。

第1問 本試験同様、発音問題が三題出されているが、やはり素材が限定されている印象が強い。また、本試験よりも解きやすく感じられた。

問1 音節末のdの発音を問う問題。合成語の構成要素の区切りから、正答のみが音節初めに位置していることがわかる。

問2 母音の長短の判別。どの単語もしっかりと発音も覚えていてもらいたい基本単語。

問3 アクセントの問題。選択肢はすべて基本語彙なので、問2同様アクセントも覚えていてもらいたい。

問4 文法上の性を問う問題。本試験は同じカテゴリーの語彙だったが、追試験では特に関連性はないが、どれも名詞の性も合わせて覚えていてもらいたい基本語彙。

問5 複数形の語尾変化。Türのみ、単数形で既にウムラウトがある単語。他の選択肢は複数形で使う場合に母音が変音するので、語尾変化とは異なる要素で判断することもできる。

問6 ①②④の選択肢は、強変化動詞として最も基本的なもののなので、弱変化動詞の③を選ぶのは容易である。

問7 正答のschreibenのみが強変化動詞であるので、容易な問題となっている。

問8 本試験同様、シンプルな問題。単語をカテゴリーごとに学習してきた受験者にとっては容易なもの。

第2問 基本的な文法知識の問題。動詞の機能や格変化などの正確な知識がないと解けない。日

常会話で使う表現、動詞と前置詞の関係、従属接続詞等、様々な分野の知識が問われている。

問1 時刻を聞く基本的表現。他の選択肢も Wie + 副詞で統一されていて工夫が感じられる。

問2 verzeihen は謝罪の表現としては entschuldigen と比べるとやや高度か。

問3 jn. um etw⁴ bitten は熟語表現としては重要だがやや難しい。

問4 meiner Meinung nach は、意見を表明する際の定型句として基本的なもの。

問5 jm. gefallen の完了形であることが分かるかどうか問われている。

問6 während が従属接続詞として使われていて、意味が分かれば正解を導き出すのはそれほど難しくはない。

問7 問題文は日常会話で頻繁に使われる表現である。

問8 nichts + 中性名詞化した形容詞。語尾を正確に覚えているかが問われている。

問9 知覚動詞 + 目的語 + 不定詞を答える問題。間違えやすいが、重要な表現である。

問10 形容詞を中性名詞化したものが不定代名詞 was の先行詞となる知識が問われている。
先行詞が nichts、alles よりはやや難しい。

第3問 日本語に合わせてドイツ語の文を並び替える問題。本試験では採点方式について意見を述べたが、そのような例は追試験の方が少ない（問2、3）。本試験同様、問題文の質は高く比較的高度な文法知識が求められている。

問1 関係副詞に導かれる副文の語順の問題。

問2 助動詞を含む文の不定詞の位置（この場合更に、gehen が Ski laufen という不定詞をともなっているのにより高度である）、と副詞 deswegen の以下の語順が問われている。やや難問。ただ、21 が gehen となる理由と、22 が sie となる理由の間に相関関係はない。

問3 aufmerksam machen が助動詞とともに用いられている主文の aufmerksam の位置と、dass 以下の副文の定動詞の位置には相関関係はない。

問4 um + zu 不定詞句の意味と語順が問われている。

第4問 本試験同様、会話文を扱った問題。A → B → C と会話の長さが長くなる。C には図表がついている。

A コミュニケーションを意識した問題。状況に応じた適切な表現を瞬時に思い浮かべられる能力が問われている。

I 問1 依頼文で、控えめな気持ちを vielleicht であらわす用法に慣れているかが問われている。やや難問。

II 問2 会話に即した意味が入られるかが問われている。Kellner が客に対してすることという観点で考えれば、empfehlen が入ることに気付くはずである。

III 問3 問題文で Ingenieur と答えているので、職業を聞く表現として適切な④を選ぶことができる。

IV 問4 提案に賛成する表現として適切な Gute Idee! を選べるかが問われている。

B 本試験と同様、会話文が長くなり、単に反射的な応答能力だけではなく、会話のテーマや流れなどを客観的に想像する能力も要求される問題となっている。

問1 Das が前文の内容を指していることが理解できているかが問われている。選択肢は dass 以下の内容を丁寧に読めば答えられる。

問2 空欄の直後に書かれている、Nachricht schickenに必要なものを選択肢から選ぶ。

C 会話と図表を照らし合わせて解く問題。問2→問3→問1の順に出題された方が、受験者にとって解きやすかったかもしれない。本試験よりもしっかり読み込まないと解けない問題。

問1 空欄の前後からMarkusが相手の指定した時刻に同意していることがわかる。

問2 Peterのセリフを、表を見ながら3分の2程読み進めないと正解が分からないように工夫されている。

問3 問1を答えた段階で、この問いの答えも予見できるように思われる。

第5問 長めの会話文。会話文、設問ともに本試験より難易度が高いと思われるが、よく考えられた良問であると考ええる。

問1 空欄直後の表現から、Edithが自分の部屋にはベッドを置くスペースが乏しいことを認めていると判断できれば正答がどれかが分かる。

問2 選択肢のドイツ語は全て利点となり得る単語となっているが、weil以下の台詞からそれが「実用面」での利点であることを読み取る必要がある。

問3 daが指しているものを探す。直前だけでなく、対話全体のテーマがFutonであることを理解していなければならない。

問4 du bist nicht zu überzeugenの言い換えとして適切な表現を選ぶ。難しい表現だが、選択肢のドイツ語が能動態にそろえられていて、überzeugenがわからなくても、会話のあらすじがつかめていれば消去法で選ぶこともできる。選択肢のドイツ語文に配慮がなされており、良問である。

問5 対話をしている2人がそれぞれどのような意見を持っているかが問われている。選択肢を丹念に比較する必要がある。

第6問 長文読解の問題で、追試験のテーマは「夢」。本試験よりもやや抽象性の高いテーマではあるが、高校生が幅広い教養を身に着けるという観点からすると、よいテーマ設定だと感じた。

問1 直後のdass節の内容が正しく日本語訳できれば、自ずと正答が②であることが分かる。

問2 Daが指すものが前文内容であり、選択肢からそれに該当するものを探せばよい。

問3 前後の文から「(不安)を取り除く」に相当する単語が入ることが分かる。選択肢はやや難しい単語が揃っており、難問となっている。

問4 下線部直後の：以下に、前に書かれたことが説明されていることが分かれば、正答の選択肢がほぼ直訳であるので判断が可能である。

問5 下線部の直後の文の内容に合致した選択肢を選べばよい。

問6 下線部の内容が直後の文に書かれており、ほぼ直訳となる選択肢が正答となっている。

問7 sich⁴ erfüllenが理解できるかが重要。設問の「前提として最も適切なものを」という表現に少し違和感がある。下線部のような結果に対して、正答の内容は「きっかけ」ではあるが、それを「前提」と言えるかどうか疑問が残る。

問8 下線部をドイツ語で言い換えた文を選択する。全て副文で書き直されている。

nicht nur..., sondern auch... と mit etwas zu tun habenを理解しているかがポイント。

②③はVergangenheitを変えることは現実として不可能である。①と④の違いはnichtの有無

であり、ドイツ語が理解出来ていて、且つ一般常識と照らし合わせれば選択可能。難問。

問9 本文の内容として適切なものを二つ選択する。①についてはどこにも書かれていない。

②Übrigens以下を読めば明らか。ちなみに、この段落はこの選択肢のためだけに付け加えられたような印象を受けた。③正答。本文にそう書かれている。④本文中に、このような夢は睡眠中に見る夢ではないとはっきりと書かれている。⑤このような記述はない。⑥消去法でこれが正答であることは想像できるが、この日本語の表現自体が明らかに本文の内容と一致しているかという点に疑問が残る。

3 分量・程度

(1) 分量について

本試験と同様、適切な量であると考える。

(2) 程度について

本試験よりも難易度が高いような気がするが、問題としての工夫のレベルはより高度であり、扱われている内容もより興味深いと感じた。

4 表現・形式

第3問の採点方式については本試験と同様、配慮を求めたい。問題を追うごとに配点と比例して難易度が高くなっている点に関しては本試験よりも妥当である。

5 おわりに

毎年本試験と追試験の二つを作成されている問題作成委員の方々のご苦勞には頭が下がる。今回も、前回（平成23年度）同様、本試験よりも一段と工夫が施されているように思われた。前文で述べたように、本試験と追試験では、その位置付けや作問方針にある程度の違いがあつてしかるべきであると考えており、両者の、特に難易度についてのバランスが今後も保たれていくことを希望している。